

ウォーキング

伊勢神宮外宮と宮川堤の桜

令和5年4月1日（土）

1. ルート 近鉄伊勢市駅～伊勢神宮外宮～宮川堤～宮川の渡し～伊勢市駅
10.5 km (12,000 歩)
2. 参加者 伊藤利男・伊橋健治・喜吉 雄・伝田 貢・高木 勉・中村 衛
中村軍志・福本 泉・濱田 一 9 名
3. ドキュメント

今年の桜の開花はかなり早いとの情報が出されていたので今月のウォーキングは一週間早めて1日の実施となった。近鉄伊勢市駅に10時に降り立ち、まず駅前が玄関口の伊勢神宮外宮にお参りすることとする。鳥居をくぐるといつもながら神々しさを感じ清々しい気持ちになるのは日本人のなせる業なのか。観光客を含めて多くの参拝客が訪れ外国から来た人たちもちらほらと混ざっている。参拝を終えて桜の咲く宮川堤へ歩を進める。しばらく行くと歩道の傍に「筋向橋」の欄干が残っていて以前は小川が流れていて埋め立てたのであろうことが覗える。11時20分ごろ、宮川堤の上流部に辿り着く。



伊勢神宮・外宮の玄関口



外宮の神殿



筋向橋の欄干



ケヤキの大木

辿り着いた堤の小公園に天然記念物に指定されている榎の大木があり、その幹回りは5.8mと記されていた。一休みしてよいよ桜見物のコースとなる。桜見には最高の天気で今年一番の気温で風もなく素晴らしい陽気である。満開の桜の宮川右岸の堤防を下流に向かって歩いていくと河川敷には数百台と思われる車が駐車していた。我々は渡会橋の下流の広場に座り込み宴会？を始める。汗ばむ陽気でビールが美味しい、そして差し入れの「三重の寒梅」もさらに美味しい。



満開の桜



三重県最長の川・宮川



宮川の河川敷



昼食時のひと時



上機嫌のみなさん

桜の木の下には多くの家族連れの様があり、コロナ下で苦しんだ3年間のうっ憤を晴らしているように伺える。われらメンバーも何時になく会話を楽しみ情報交換をすることが出来たような気がする。此の俣、コロナが治まって社友会の行事や活動が戻れば健康寿命を維持することが出来ると思うのは欲張りなのなのだろうか。食事の後、近くに居合わせた健康そうな娘さんをお願いしてシャッターを押してもらおう。いつもとは違った集合写真が撮れたのがうれしい。

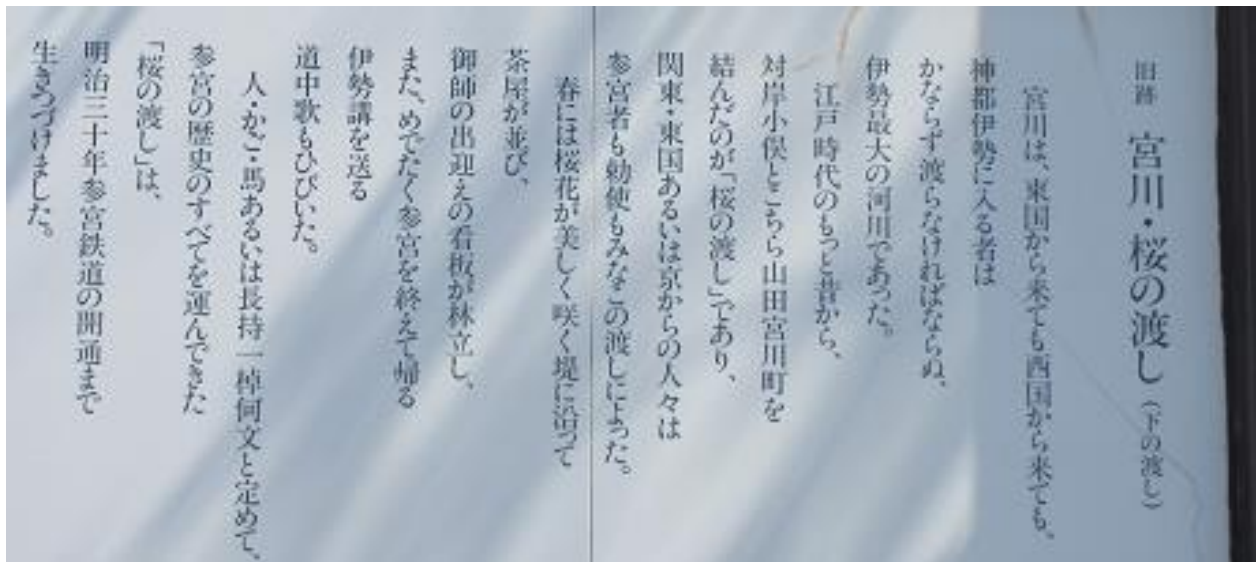
宮川堤をさらに下流に歩いていくと旧参宮街道の宮川橋に到達する。その昔はここには橋がなく「桜の渡し」と呼ばれる川渡しであったらしい。伊勢神宮にお参りする人は必ずこの渡しを通らなければならなかったと看板に書かれていた。ここから旧参宮街道の面影を残す道筋を歩いて伊勢市駅に戻り14時17分の名古屋行き急行に乗り帰路に就く。



ほろ酔い気分で堤防を歩く



宮川の渡し案内板



宮川の渡し案内板の詳細